

「時代の変化とともに」

代表取締役社長

林 欣吾

Hayashi Kingo
President & Director



エネルギー事業を取り巻く環境は、低炭素化への強い社会的要請や、デジタル化の急速な進展、再生可能エネルギー電源の地産地消・分散化など歴史的な転換点にあります。

また至近においては、世界に大きな衝撃を与えた新型コロナウイルスにより、今後、社会や経済の構造、お客さまの価値観や行動の変容が進み、新たなニーズや解決すべき課題が現れてくるものと考えております。

中部電力グループは、このような劇的な事業環境変化を成長への大きなチャンスと捉え、本年4月、スピーディかつ着実にお客さまのご期待にお応えしていくために、送配電部門と販売部門を分社化し、新たな事業体制を構築しました。

その上で、当社グループとして、「安定供給・レジリエンス」「低炭素社会の実現」「新たな価値の創造・提供」を3つの柱に掲げ、一体感を持ってESG経営推進・SDGsへの貢献を果たしてまいります。

「安定供給・レジリエンス」では、至近年、自然災害の被害が大規模化する中であっても、レジリエンスの一層の強化により、インフラ事業者としての使命を完遂し続けることを最優先にしております。

「低炭素社会の実現」では、再生可能エネルギー開発を始め、発電から送配電および販売にいたるバリューチェーンのあらゆる面での取り組みを進めています。

そして、今後もお客さまに引き続き当社グループをお選びいただくため、安定・安価なエネルギーをお届けすることに加え、多様化する社会・お客さまニーズを先取りして、「新たな価値を創造・提供」していくことが不可欠です。

これらの取り組みに当っては、技術研究開発が重要です。各専門分野での将来に向けたたゆまぬ探求と、分野の壁を越えた力の結集・融合により、互いが刺激し合い、ブレークスルーにつながる活動を活性化していく、しなやかな研究基盤を築いていきたいと思っております。

私は、販売部門在籍中には「暮らしレポリキュレーション」を合言葉として、お客さまの傍に解があるという視点に立つソリューション活動を展開してきました。仲間と繰り返し意見交換を行い、着実に成果を積み上げて

いくことで、お客さまに寄り添ってサービスを提供することに関しては当社が一番であるという自負を持ち続けることができました。

その成果の一例ですが、「超高速昇温コンパクト炉」の開発は、一般財団法人省エネルギーセンター様から省エネ大賞の「経済産業大臣賞」を、トヨタ自動車株式会社様から「技術開発賞」をいただき、実際にお客さま工場の生産ラインにおいてご利用いただいております。

電力小売りの全面自由化後も、「他社が持っていないサービスを提供する」、「他社よりも一歩でも半歩でも先を行く」、「販売力で会社を引っ張っていく」という攻めの気持ちを高め、熱意が溢れる職場風土づくりに努めるとともに、築き上げたお客さまとの「つながり」や「信頼関係」を礎として、お客さまに新しいサービスをいち早くお届けできるよう邁進しました。

当社グループは、電力の安定供給に関する研究をはじめ、様々な分野の研究を幅広く推進しています。その研究課題は時代とともに変化し、今後の人口減少、コミュニティの希薄化などの社会課題の解決に貢献していくため、暮らし、防災、防犯、医療分野などにおける新しいサービスの創造に向けた技術開発についても意欲的に取り組んでいます。

至近では、省エネや快適な暮らしをサポートするサービス面で、スマートリモコン「ここリモ」に、AIの機械学習によりご家庭のエアコン温度を自動でコントロールできる新機能を追加したり、医療分野の面で、AI・IoT技術等を用いて、在宅でも健康データのやりとりや、ビデオ通話による診察などができる医療機関様の「AIホスピタル」の取り組みに貢献しております。

今後も、熱意と情熱をもって技術研究開発に果敢に「挑戦」し、エネルギーインフラを「コミュニティサポートインフラ」に進化させることで、お客さまや社会からの期待を超えるサービスをスピード感を持って提供してまいります。

当社グループはこれからも人と人、人と社会をむすび、未来を切り開くサービスをエネルギーとともにお届けして、社会の発展に貢献していきたいと思っております。